

# 令和6年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	商業	科目	課題研究	単位数	2	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	なし			副教材	反復式簿記問題集全商2級（実教出版）				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4	第VI編「決算②」	第1章「決算整理（その2）」	①減価償却費の間接法による記帳 ②減価償却費の定率法による計算	○	◎	<p style="text-align: center;">学習のねらい</p> <p>株式会社の会計並びに財務諸表の作成に関する知識と技術を習得し、簿記会計のしくみについて理解させるとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を養う。</p>	
				③有価証券の評価 ④当座借越勘定への振り替え	○	○		
				⑤費用・収益の繰り延べ ⑥費用・収益の見越し ⑦精算表の作成	○	◎		
	5	第IV編「会計帳簿」		⑧損益計算書・貸借対照表	○	◎		
				⑦演習問題	○	◎		
				中間考査	◎	◎		
	6	第V編「特殊な取引」	第1章「帳簿」	①帳簿の種類 ②分課制度と帳簿組織 ③帳簿の形式	○	◎		<p style="text-align: center;">学習の目標</p> <p>株式会社のビジネス活動によって発生する各取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を身に付ける。 取引内容の記帳において、仕訳から勘定の記入を経て決算に至るまでの簿記の基本的なしくみについて理解を深める。 株式会社の作成した諸帳簿や伝票、更には貸借対照表や損益計算書などからビジネスの諸活動を計数的に把握することのできる能力と態度を身に付ける。</p>
			第2章「3伝票制による記帳」	①証ひょう ②伝票 ③仕訳伝票の利用 ④3伝票制	◎	○		
				⑤仕訳集計表 ⑥演習問題		○ ◎		
	7	第VII編「本支店会計」	第1章「特殊な手形取引の記帳」	①手形の書き換え ②不渡手形	○	◎		
				③営業外手形 ④演習問題	○	◎		
				期末考査	◎	◎		
2 学期	8		第1章「本支店間の取引」	①支店会計の独立		○ ◎	<p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>株式会社における簿記会計について基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記のしくみについて理解しているか。 株式会社における簿記会計に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を把握して、的確に処理するとともに、その成果を適切に表現できるか。</p>	
				②本店・支店間の取引	◎	○		
				③支店相互間の取引	○	◎		
	9			④演習問題		○ ◎		
			第2章「本支店財務諸表の合併」	①本支店財務諸表合併の必要性	○	◎		
				②未達取引の整理	○	◎		
	10	発展的な内容1「株式会社会計」		③合併貸借対照表の作成	○	◎		
				④合併損益計算書の作成	○	◎		
				中間考査	◎	◎		
	11	発展的な内容2「その他の債権・債務」	第1章「株式会社の設立・開業と株式の発行」	①株式会社のしくみ ②株式会社の設立	○	◎		<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>簿記会計における様々な処理方法や記帳方法について、自ら思考を深め、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。</p>
				③資本金の増加	◎	○		
			第2章「当期純損益の計上と剰余金の配当・処分」	①当期純損益の計上 ②剰余金の配当および処分	○	◎		
12		第3章「株式会社の税務」	①株式会社の税金	◎	○			
		第1章「電子記録債権・電子記録債務」	①電子記録債権・電子記録債務 ②電子記録債権・電子記録債務の発生 ③電子記録債権の譲渡 ④電子記録債権・電子記録債務の消滅		○ ◎			
			期末考査	◎	◎			
3 学期	1	発展的な内容3「進んだ決算」 第VIII編「会計ソフトウェア」	第2章「クレジット売掛金」	①クレジットによる取引		○ ◎	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>株式会社における簿記会計に関心を持ち、その知識と技術の習得をめざして主体的・意欲的に取り組んでいるか。</p>	
				②演習問題		○ ◎		
				①コンピュータと会計処理 ②コンピュータ会計 ③一般的な会計処理の手順	○	◎		
	2			学年末考査	◎	◎		
				家庭学習				
				"				
	3			"				
				"				
				"				
								備考

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【科目の特色】

- 株式会社における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得するために、取引を分解し、取引要素の結合関係をしっかり身に付けることが大切です。
- ノートは、板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたことや感じたこと、さらに興味を持ったことをメモしたり、整理すると、復習や家庭学習の時に役立ち、学習に広がりが生まれます。
- 授業で取り上げる様々な課題について、教科書に書かれている文章を単に読むだけでなく例題や記帳練習を通して理解を深め、授業の内容を知識として定着させる努力を怠らないことが大切です。

【授業】

- 簿記の授業は週に2時間ですが、SUTを含めて4時間となります。授業は休まないよう体調管理を気を付けてください。
- 特に商業の授業では、服装頭髪・挨拶・態度など、職業人としての意識を持って授業に臨んでほしい。
- 授業では、教科書や問題集の他にノート(A版)・定規・赤ボールペン・電卓・糊等を準備しておいてください。
- 欠席した場合は、その日のノートを級友から借りて写させてもらうなど、学習の遅れを取り戻しましょう。
- 授業でわからないところがあったときは、放置せずその日のうちに解決しましょう。
- 冬季休業中には、補習(SUT)を1日2時間実施します。

【家庭学習】

- 原則、授業時間内に理解します。後で確認しようと思わず、大事なことは授業時間内に覚えましょう。
- 簿記の家庭学習は、復習を基本とします。授業で学習した内容は、その日のうちに復習してください。学習内容の定着率が格段に向上し、理解がスムーズになります。
- 当たり前のことですが、問題集やプリントなどの課題は必ず提出してください。

【定期考査】

- 中間考査、期末考査を実施します。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の 三つの観点から総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 問題集やプリント等の課題提出状況等(主に②と③の観点から評価します。)
	2 学期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 問題集やプリント等の課題提出状況等(主に②と③の観点から評価します。)
	3 学期	学年末考査並びに検定試験(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況及び学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 問題集やプリント等の課題提出状況等(主に②と③の観点から評価します。) 検定試験への取組姿勢(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の成績を総合的に評価します。